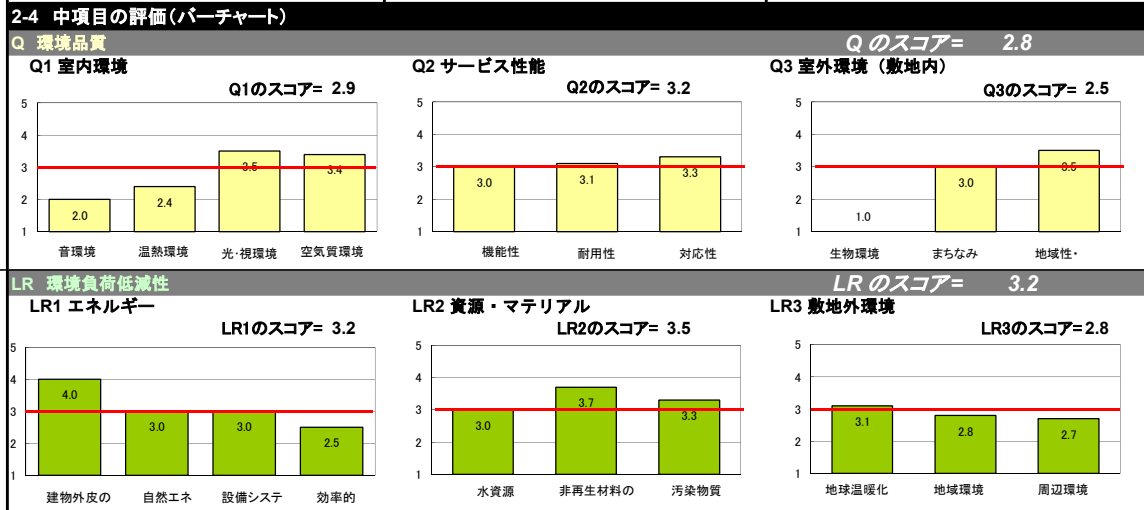
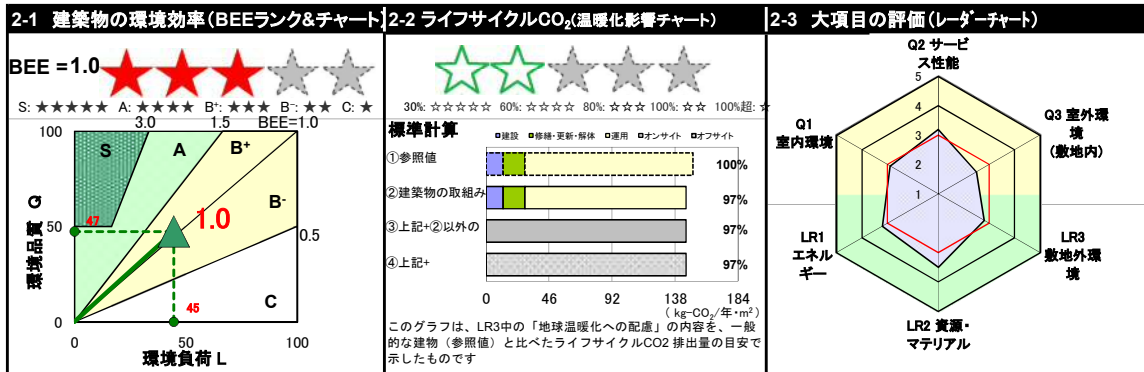


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	オーネスト社若新築工事	階数	地上5F
建設地	愛知県刈谷市港町六丁目23番、25番1、32番1、33番	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域、法22条区域	平均居住人員	230 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年2月 予定	評価の実施日	2016年9月29日
敷地面積	5,196 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社 加藤建築事務所 市
建築面積	1,825 m <sup>2</sup>	確認日	2016年9月30日
延床面積	6,704 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社 加藤建築事務所 加藤 知徳



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.1</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>5.9 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.4</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$  × 100

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$  × 100

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音			2.0	0.15	2.1	1.00	2.0	
1.2 遮音			3.0	0.40	3.0	0.40		
1.2.1 開口部遮音性能			1.6	0.40	1.9	0.40		
1.2.2 1 界壁遮音性能			1.0	0.40	1.0	0.30		
1.2.2.2 2 界壁遮音性能			2.0	0.60	2.0	0.30		
1.2.2.3 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	1.0	0.20		
1.2.2.4 4 界床遮音性能(重量衝撃源)		居室1: L値=50	-	-	4.0	0.20		
1.3 吸音			1.0	0.20	1.0	0.20		
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御			2.4	0.35	2.5	1.00	2.4	
2.1.1 1 室温			3.2	0.50	3.4	0.50		
2.1.1.2 2 外皮性能		適切な断熱計画	3.0	0.38	3.0	0.57		
2.1.1.3 3 ソーン別制御性			4.0	0.25	4.0	0.43		
2.1.2 2.2 湿度制御			3.0	0.38	-	-		
2.1.3 2.3 空調方式			1.0	0.20	1.0	0.20		
2.1.4 2.3 空調方式			2.0	0.30	2.0	0.30		
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用			3.2	0.25	4.1	1.00	3.5	
3.1.1 1 昼光率		共同生活室: 2.5%以上、居室1: 1.25%以上	4.2	0.30	4.2	0.30		
3.1.1.2 2 方位別開口			5.0	0.60	5.0	0.60		
3.1.1.3 3 昼光利用設備			3.0	0.40	3.0	0.40		
3.1.2 3.2 グレア対策			1.0	0.30	4.0	0.30		
3.1.2.1 1 昼光制御		居室1: バルコニー(庇)+カーテン	1.0	1.00	4.0	1.00		
3.1.3 3.3 照度			3.0	0.15	3.0	0.15		
3.1.4 3.4 照明制御		共同生活室: 1作業単位で制御可能かつリモコン調整可能	5.0	0.25	5.0	0.25		
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策			3.3	0.25	3.8	1.00	3.4	
4.1.1 1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材を全面的に使用	4.0	0.50	4.0	0.63		
4.1.2 4.2 換気			4.0	1.00	4.0	1.00		
4.1.2.1 1 換気量		共同生活室: 1.2倍以上確保、居室1: 1.4倍以上確保	2.5	0.30	3.6	0.38		
4.1.2.2 2 自然換気性能		2階居室: 1/10以上確保	4.0	0.50	5.0	0.33		
4.1.2.3 3 取り入れ外気への配慮			-	-	5.0	0.33		
4.1.3 4.3 運用管理			1.0	0.50	1.0	0.33		
4.1.3.1 1 CO <sub>2</sub> の監視			3.0	0.20	-	-		
4.1.3.2 2 喫煙の制御			3.0	1.00	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ			-	0.30	-	-	3.2	
1.1.1 1 広さ・収納性		居室: 10m <sup>2</sup> /床以上確保、全室個室	2.7	0.40	4.0	1.00	3.0	
1.1.1.2 2 高度情報通信設備対応			3.0	0.40	5.0	0.60		
1.1.1.3 3 バリアフリー計画			-	-	5.0	1.00		
1.1.2 1.2 心理性・快適性			3.0	1.00	-	-		
1.1.2.1 1 広さ感・景観		天井高2.5m	1.0	0.30	2.5	0.40		
1.1.2.2 2 リフレッシュスペース			-	-	4.0	0.50		
1.1.2.3 3 内装計画			1.0	1.00	1.0	0.50		
1.1.3 1.3 維持管理			4.0	0.30	-	-		
1.1.3.1 1 維持管理に配慮した設計		便所の壁・床に防汚性材を採用、風除室扉は十分離隔を確保等	4.0	0.50	-	-		
1.1.3.2 2 維持管理用機能の確保		清掃作業に使えるコンセント配置、各階にSKを配置等	4.0	0.50	-	-		
1.1.3.3 3 劣化対策			-	-	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震			3.1	0.31	-	-	3.1	
2.1.1 1 耐震性			3.0	0.48	-	-		
2.1.1.2 2 免震・制振性能			3.0	0.80	-	-		
2.1.2 2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.20	-	-		
2.1.2.1 1 躯体材料の耐用年数			3.7	0.33	-	-		
2.1.2.2 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.23	-	-		
2.1.2.3 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		② リン吹付25年	4.0	0.23	-	-		
2.1.2.4 4 空調換気ダクトの更新必要間隔		塩ビシート20年、ビニルクロス(下地共)20年、ホード類30年	5.0	0.09	-	-		
2.1.2.5 5 空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.08	-	-		
2.1.2.6 6 主要設備機器の更新必要間隔		上位3種: 給水(B)・汚水排水(B)・雑排水(B)、Eは不使用	5.0	0.15	-	-		
2.1.3 2.4 信頼性			3.0	0.23	-	-		
2.1.3.1 1 空調・換気設備			2.8	0.19	-	-		
2.1.3.2 2 給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-		
2.1.3.3 3 電気設備			2.0	0.20	-	-		
2.1.3.4 4 機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-		
2.1.3.5 5 通信・情報設備		耐震クラスA	4.0	0.20	-	-		
2.1.3.6 6			2.0	0.20	-	-		
<b>3 対応性・更新性</b>								
3.1 空間のゆとり			3.3	0.29	3.5	1.00	3.3	
3.1.1 1 階高のゆとり		階高3.8m	3.6	0.31	4.0	0.50		
3.1.1.2 2 空間の形状・自由さ		居室1: 壁長さ比率=0.26	4.0	0.60	4.0	0.60		
3.1.2 3.2 荷重のゆとり			3.0	0.40	4.0	0.40		
3.1.3 3.3 設備の更新性			3.0	0.31	3.0	0.50		
3.1.3.1 1 空調配管の更新性			3.4	0.38	-	-		
3.1.3.2 2 給排水管の更新性			3.0	0.17	-	-		
3.1.3.3 3 電気配線の更新性			3.0	0.17	-	-		
3.1.3.4 4 通信配線の更新性		EPS・ケーブルラック・天井内転シ配線の採用	5.0	0.11	-	-		
3.1.3.5 5 設備機器の更新性		EPS・ケーブルラック・天井内転シ配線の採用	5.0	0.11	-	-		
3.1.3.6 6 バックアップスペースの確保			3.0	0.22	-	-		
			3.0	0.22	-	-		

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数					
						<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				
1 生物環境の保全と創出	独自③	1.0	0.30	-	-	-	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④	3.5	0.30	-	-	-	-	-	-	3.5
3.2 敷地内温熱環境の向上	独自④	4.0	0.50	-	-	-	-	-	-	4.0
3.2 敷地内温熱環境の向上	独自④	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	3.0
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										
<b>LR1 エネルギー</b>										
BPI <sub>m</sub> =0.83										
1 建物外皮の熱負荷抑制		4.0	0.30	-	-	-	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>										
BEI <sub>m</sub> =0.96										
集合住宅以外の評価(3a.3b)		3.0	1.00	-	-	-	-	-	-	3.0
集合住宅の評価(3c)		-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>4 効率的運用</b>										
集合住宅以外の評価		2.5	0.20	-	-	-	-	-	-	2.5
4.1 モニタリング		2.5	1.00	-	-	-	-	-	-	2.5
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	3.0
集合住宅の評価		2.0	0.50	-	-	-	-	-	-	2.0
4.1 モニタリング		-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>										
BPI <sub>m</sub> =0.83										
<b>1 水資源保護</b>										
1.1 節水										
		3.0	0.15	-	-	-	-	-	-	3.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用										
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	-	-	-	-	3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	3.0
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>										
2.1 材料使用量の削減		3.7	0.63	-	-	-	-	-	-	3.7
2.2 既存建築躯体等の継続使用		2.0	0.07	-	-	-	-	-	-	2.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.24	-	-	-	-	-	-	3.0
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	3.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材		5.0	0.20	-	-	-	-	-	-	5.0
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	② 独自	2.0	0.05	-	-	-	-	-	-	2.0
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	② 独自	5.0	0.24	-	-	-	-	-	-	5.0
躯体+GL工法+仕上で分別が容易、OA707を採用										
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>										
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.3	0.22	-	-	-	-	-	-	3.3
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.32	-	-	-	-	-	-	3.0
1 消火剤		3.5	0.68	-	-	-	-	-	-	3.5
2 発泡剤(断熱材等)		-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 冷媒		4.0	0.50	-	-	-	-	-	-	4.0
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	3.0
発泡断熱材はノンフロン製品を採用										
<b>LR3 敷地外環境</b>										
1 地球温暖化への配慮										
1 地球温暖化への配慮	①	3.1	0.33	-	-	-	-	-	-	3.1
ライフサイクルCO2概算値:97%										
<b>2 地域環境への配慮</b>										
2.1 大気汚染防止										
		2.8	0.33	-	-	-	-	-	-	2.8
2.2 温熱環境悪化の改善										
		3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	3.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制										
		3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	3.0
1 雨水排水負荷低減	独自	2.5	0.25	-	-	-	-	-	-	2.5
2 汚水処理負荷抑制	独自	3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	3.0
3 交通負荷抑制	独自	3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	3.0
4 廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	-	-	-	-	1.0
<b>3 周辺環境への配慮</b>										
3.1 騒音・振動・悪臭の防止										
		2.7	0.33	-	-	-	-	-	-	2.7
1 騒音	独自	3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	3.0
2 振動	独自	3.0	1.00	-	-	-	-	-	-	3.0
3 悪臭		-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制										
		3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	3.0
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-	-	-	-	3.0
2 砂塵の抑制		-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	3.0
3.3 光害の抑制										
		1.6	0.20	-	-	-	-	-	-	1.6
1 屋外照明及び屋内照明の立ち上る光への対策		1.0	0.70	-	-	-	-	-	-	1.0
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	3.0

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>3.1</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.1	0.10
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>3.4</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.19
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09
			外構緑化:5.89%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			<b>1.0</b>
			(評価ポイント)
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 オーネスト杜若新築工事

計画上の配慮事項	
総合	建物の配置は周囲への日影対策として南西側に配置し敷地地盤は水害等考慮し道路より1m嵩上げする。バルコニーを四周設置し日除機能を兼ねる。中庭は排気塔として役割を持ち換気を促す。
Q1 室内環境	全面的にF☆☆☆☆の材料を使用することや適切な換気計画とすることで、室内空気質環境に配慮している。
Q2 サービス性能	耐用年数の長い材料や防汚性材等を採用し、建物の維持管理に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地境界から後退した建物配置とし、可能な限り敷地境界沿いに植栽をすることで、周辺環境に配慮した計画としている。
LR1 エネルギー	適切な外皮性能を確保すると共に、LED照明等による設備システムの効率化を計画することにより、エネルギー消費を低減させることに配慮している。
LR2 資源・マテリアル	節水型器具を採用することにより、水資源の保護に配慮している。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物に対して97%としている。
その他	